

ルーチン®アドスピノ™ GT

箱粒剤



バイエル クロップサイエンス株式会社
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262
<https://cropscience.bayer.jp>

お客様相談室 ☎0120-575-078
(9:00~12:00、13:00~17:00 土・日・祝日を除く)

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

(P-2015 18.07.JWT)

技術資料

箱で抵抗力をつけて、 本田ですっと 堂々出航



ルーチン®アドスピノ™ GT

箱粒剤

移植期に使って本田で一括防除できる
新しいフルスペック剤

イネ自身に抵抗力をつける
植物病害抵抗性誘導剤「ルーチン」と
紋枯病に効く「グレータム」、さらに、幅広い害虫に
定番の「アドマイヤー」と「スピノ」がひとつに



©はバイエルクロップサイエンス(株)の登録商標
TM:スピノ (SPINO) はザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標

はじめに

ルーチン®アドスピノ™GT箱粒剤は、バイエルクロップサイエンスAGが見出したイネいもち病に防除効果が高いイソチアニルと、幅広い害虫に対し高い防除効果と持続性を兼ね備えたネオニコチノイド系殺虫剤イミダクロプリド、チョウ目害虫に卓効を示すスピノサド、紋枯病に効果のあるチフルザミドを混合した水稲用箱処理剤です。

本剤はBCM-071粒剤の試験コード名で平成19年度より(社)日本植物防疫協会を通じた公的試験が実施され、水稲の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、フタオビコヤガ、コブノメイガに対して優れた効果を示す事が確認されました。

本技術資料は今までに得られた技術的知見を基にルーチン®アドスピノ™GT箱粒剤の特長、作用性、試験成績などを取りまとめたもので、今後のいもち病、紋枯病、害虫防除にご活用いただければ幸いです。

有効成分の名称及び物理的・化学的性状等

商品名：ルーチンアドスピノGT箱粒剤 登録番号：第22706号
 試験名：BCM-071粒剤 種類名：イミダクロプリド・スピノサド・イソチアニル・チフルザミド粒剤
 有効成分及び含量：イミダクロプリド2.0% スピノサド1.0% イソチアニル2.0% チフルザミド3.0% 有効年限：4年

| 有効成分 | イソチアニル | イミダクロプリド | スピノサド | チフルザミド |
|-----------------------|--------------------------------------|---|--|--|
| 化学名 | 3,4-ジクロロ-2'-シアノ-1,2-チアゾール-5-カルボキサニリド | 1-(6-クロロ-3-ピリジルメチル)-N-ニトロイミダゾリジン2-イリデンアミン | スピノシンA スピノシンD | 2',6'-ジプロモ-2-メチル-4'-トリフルオロメトキシ-4-トリフルオロメチル-1,3-チアゾール-5-カルボキシアニリド |
| 構造式 | | | | |
| 分子量 | 298.15 | 255.7 | 732.0(スピノシンA) 746.0(スピノシンD) | 528.08 |
| 融点 | 193.7~195.1℃ | 144.0℃ | 84.0~99.5℃(スピノシンA) 161.5~170.0℃(スピノシンD) | 177.9~178.6℃ |
| 水溶解度(20℃) | 0.5mg/ℓ | 0.48g/ℓ | 0.0894mg/ℓ(スピノシンA) 0.0005mg/ℓ(スピノシンD) | 2.07mg/ℓ |
| 蒸気圧 | 2.36×10 ⁻⁷ Pa (25℃) | 2.0×10 ⁻⁷ Pa (20℃) | 3.0×10 ⁻¹¹ kPa(25℃)(スピノシンA) 2.0×10 ⁻¹¹ kPa(25℃)(スピノシンD) | 1.98×10 ⁻⁹ Pa (25℃) |
| 水/オクタノール分配係数(log Pow) | 2.96 (25℃) | 0.57 (21℃) | 4.0(スピノシンA) 4.5(スピノシンD) | 4.10 (25℃) |

*スピノシンA
 (2R,3aS,5aR,5bS,9S,13S,14R,16aS,16bR)-2-(6-デオキシ-2,3,4-トリ-O-メチル-α-L-マンノピラノシルオキシ)-13-(4-ジメチルアミノ-2,3,4,6-テトラデオキシ-β-D-エリスロピラノシルオキシ)-9-エチル-2,3,3a,5a,5b,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16a,16b-ヘキサデカヒドロ-14-メチル-1H-8-オキサシクロドデカ[b]as-インダセン-7,15-ジオン
 *スピノシンD
 (2S,3aR,5aS,5bS,9S,13S,14R,16aS,16bR)-2-(6-デオキシ-2,3,4-トリ-O-メチル-α-L-マンノピラノシルオキシ)-13-(4-ジメチルアミノ-2,3,4,6-テトラデオキシ-β-D-エリスロピラノシルオキシ)-9-エチル-2,3,3a,5a,5b,6,7,9,10,11,12,13,14,15,16a,16b-ヘキサデカヒドロ-14-メチル-1H-8-オキサシクロドデカ[b]as-インダセン-7,15-ジオン

ルーチンアドスピノGT箱粒剤の特長

- 育苗箱処理で水稲の主要病害虫に高い防除効果**
 水稲主要病害虫のいもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、フタオビコヤガ、コブノメイガなどに対して高い防除効果を発揮します。
 また、細菌性病害の白葉枯病に対しても効果があります。
- 植物病害抵抗性誘導型殺菌剤であるため耐性菌発達のリスクが小さい薬剤**
 ルーチンは、既存のイネいもち病薬剤耐性菌に対しても有効です。
- 浸透移行性に優れ、長い残効性**
 ルーチン、アドマイヤー、スピノ、グレートタムは優れた浸透移行性と長い残効性を有しています。
- 人畜および有用生物に対する高い安全性**
 人畜、水産動植物などへの安全性が高く、環境への影響が少ない薬剤です。
 またスピノの有効成分スピノサドは天然物由来の殺虫成分で、化学合成農薬ではないため、特別栽培農作物への使用回数(使用成分数)にカウントされません。
 (*地方自治体により特別栽培にカウントされる場合もありますので、関係機関にご確認下さい。)

安全性(製剤)

| 毒性：普通物 <small>〔毒物および劇物取締法〕にもとづく毒物・劇物に該当しないものを指すという通称</small> | 水産動植物への影響 |
|--|---|
| 急性経口毒性 (ラット♀) LD ₅₀ >2,000mg/kg | コイ LC ₅₀ (96 hrs) 354mg/ℓ |
| 急性経皮毒性 (ラット♀) LD ₅₀ >2,000mg/kg | オオミジンコ EC ₅₀ (48 hrs) 17.1mg/ℓ |
| 皮膚一次刺激性 (ウサギ) 軽度の刺激性 | 藻類 ErC ₅₀ (72 hrs) 184mg/ℓ |
| 眼一次刺激性 (ウサギ) 極軽度の刺激性 | |
| 皮膚感作性 (モルモット) 感作性なし | |

適用病害虫の範囲および使用方法 (2018年7月現在)

| 作物名 | 適用病害虫名 | 使用量 | 使用時期 | 総使用回数* | 使用方法 |
|---------|--|---|------------|--|--------------------|
| 稲 (箱育苗) | イネツトムシ ニカメイチュウ イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ フタオビコヤガ いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 | 育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g | 移植2日前~移植当日 | 本剤：1回 イミダクロプリド：3回 (移植時までの処理は1回、 本田での散布は2回) スピノサド：1回 イソチアニル：3回 (移植時までの処理は1回、 本田では2回) チフルザミド：3回 (育苗箱散布は1回、本田では2回) | 育苗箱の上から 均一に散布する |
| | | | 移植当日 | | |

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

⚠ 使用上の注意事項

- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがありますので注意して下さい。●いぐさ栽培予定水田では使用しないで下さい。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないで下さい。●さく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは行ないに行い、移植後田面が露出しないように注意して下さい。●過剰に使用したり、本剤使用後3日以上移植せずに育苗箱中におくと葉先枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守して下さい。●本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることが望ましいです。●誤食のないように注意して下さい。●本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意して下さい。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としして下さい。●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。●直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

もくじ

| | |
|-------------------------------|-------|
| はじめに・ルーチンアドスピノGT箱粒剤の特長 | 2 |
| 物理的・化学的性状・安全性・適用病害虫の範囲および使用方法 | 3 |
| ルーチンアドスピノGT箱粒剤とは | 4~6 |
| ルーチンアドスピノGT箱粒剤の防除効果 | 7~9 |
| 新農薬実用化試験成績概評 | 10~11 |

ルーチンの作用機構

ルーチンの有効成分であるイソチアニルは、イネ自身が本来持っている病害抵抗性機能を増強させ、いもち病に対し高い防除効果を発揮し、白葉枯病などの細菌性病害にも効果があります。

ルーチンは、処理後速やかに根部より吸収されイネ体内に移行し、さまざまな病害抵抗性関連の防御反応をイネ体内に誘導（全身獲得抵抗性）します。

この時点からイネは、病原菌の侵入に備える自己防御態勢（プライミング状態）を整えます。このようにルーチンは、イネが先天的に備えてる自己防御機構を増強させ、いもち病などからイネを守ります。



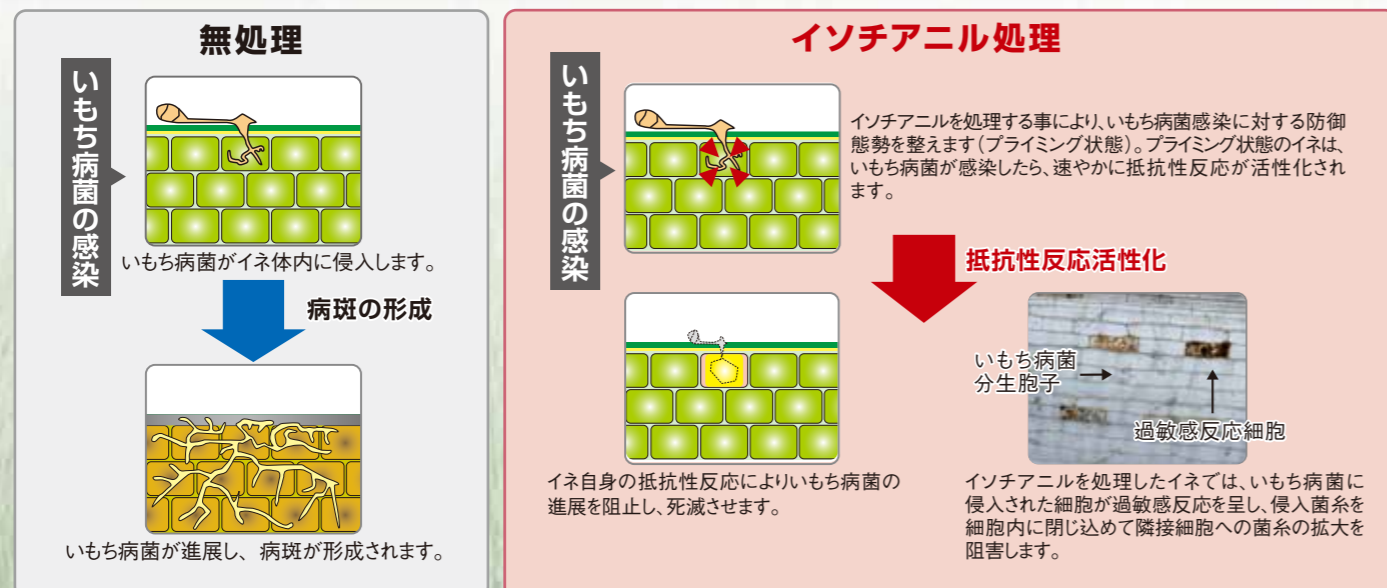
イソチアニル
全身獲得抵抗性

抵抗性誘導剤とは

ルーチンの有効成分イソチアニルは、病原菌に対して直接的な殺菌力はありませんが、イネ自体が持つ病原菌に対する抵抗性を強化する作用があり、イネ体では十分な防除効果を発揮します。



ルーチンの防御機構



イネの病害に対する阻害効果（育苗箱処理）

ルーチンは、いもち病に高い効果が認められます。いもち病以外にも白葉枯病や穂枯れ（ごま葉枯病菌）などに対しても効果が認められます。

| 作物 | 病害 | 病原菌 | 効果 |
|----|-------------|---|--------|
| イネ | いもち病 | <i>Pyricularia grisea</i> | +++ |
| | 紋枯病 | <i>Thanatephorus cucumeris</i> | — |
| | 白葉枯病 | <i>Xanthomonas oryzae</i> pv. <i>oryzae</i> | ++~+++ |
| | 穂枯れ（ごま葉枯病菌） | <i>Cochliobolus miyabeanus</i> | +~++ |
| | 褐条病 | <i>Acidovorax avenae</i> subsp. <i>Avenae</i> | — |
| | もみ枯細菌病 | <i>Burkholderia glumae</i> | + |
| | 内穎褐変病 | <i>Erwinia ananas</i> | + |
| | 苗立枯細菌病 | <i>Burkholderia plantarii</i> | + |
| | 苗立枯病 | <i>Rhizopus chinensis</i> | — |

育苗箱処理
茎葉散布（ごま葉枯病のみ）

+++ : 効果が高い
++ : 効果あり
+ : 低い効果あり
— : 効果不足

アドマイヤーの作用機構

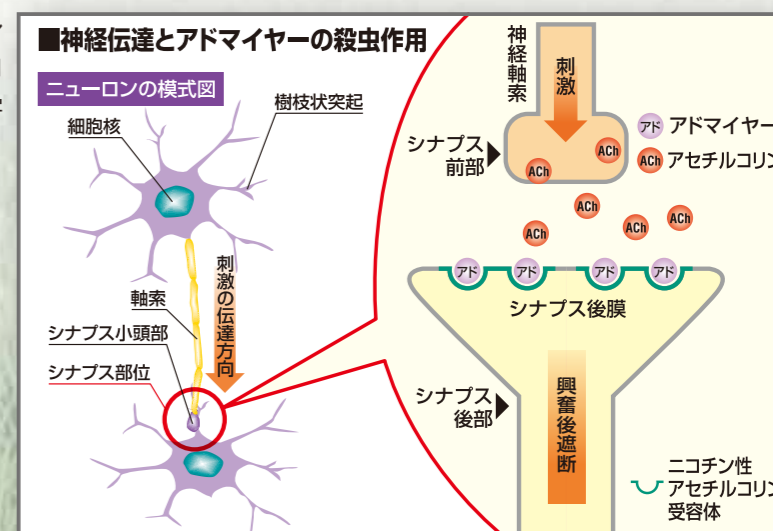
アドマイヤーの有効成分であるイミダクロプリドは、シナプス後膜（ニコチン型アセチルコリンセプター）に作用し、神経を興奮させた後に遮断し、昆虫の活動低下を引き起こします。

また、アドマイヤーは口や皮膚から昆虫体内に容易に取り込まれ速効的な殺虫活性を示しますが、致死濃度以下でも全身的な弛緩や運動能力の低下を引き起こし、摂食、吸汁活動や歩行、飛翔行動を妨げ、交尾、産卵などの行動を抑え、その効果は長期間続きます。

強い殺虫活性とその後の長期間にわたる制虫剤的な作用が従来剤に見られないアドマイヤーの大きな特長です。

アドマイヤーの殺虫機構

アドマイヤーは、シナプス後膜の本来アセチルコリンが結合すべき場所（ニコチン性アセチルコリン受容体）に作用して、正常な情報伝達を阻害します。



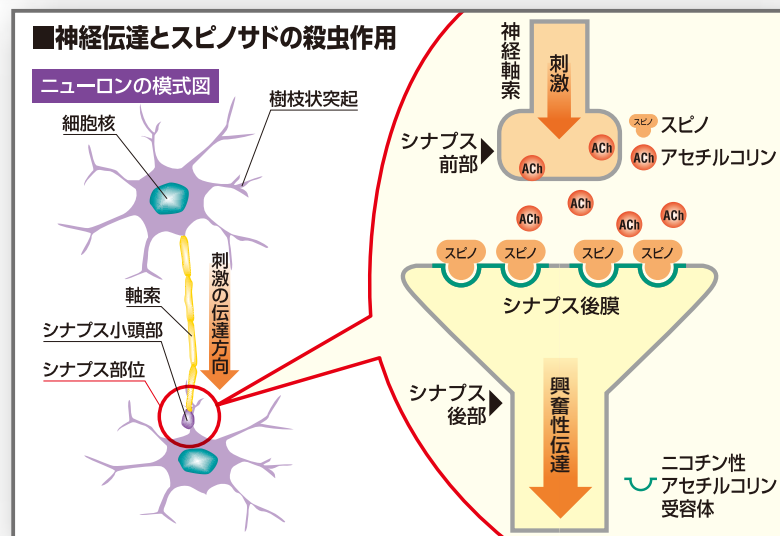
ルーチンアドスピノGT箱粒剤とは

スピノの作用機構

スピノサドは、昆虫の神経伝達に関与しています。主としてニューロン接合部のニコチン型アセチルコリン受容体を活性化すると考えられており、昆虫の筋肉に痙攣を引き起こし衰弱させて、最終的に麻痺死させます。この作用は全く新しく、本剤と同様にニコチン性アセチルコリン受容体の動きに関与していると考えられているネオニコチノイド系薬剤の作用とも異なっていると考えられています。

スピノの殺虫機構

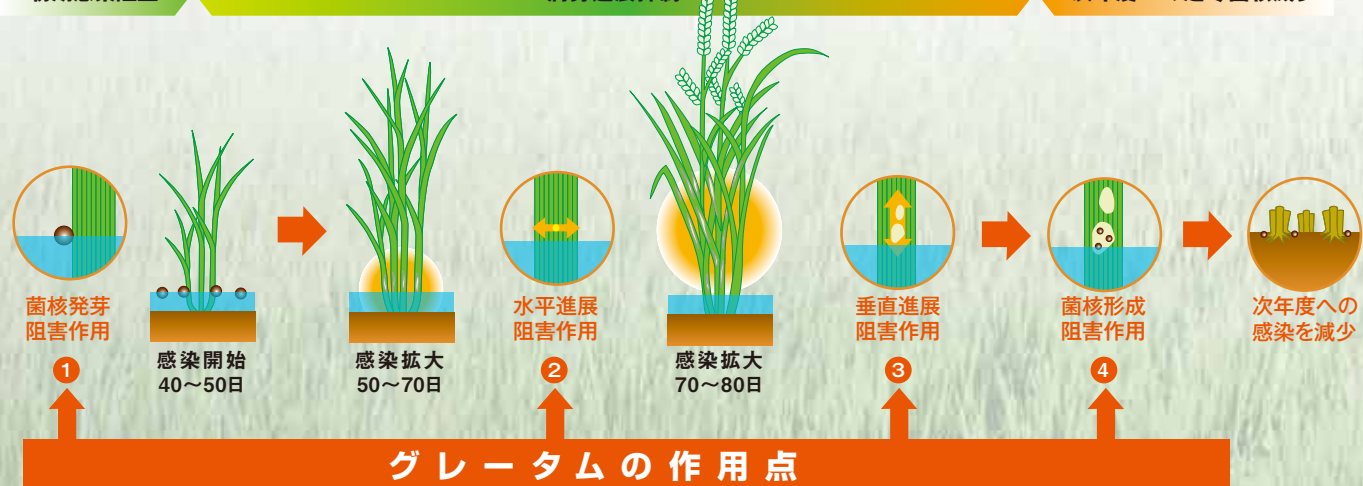
スピノサドは、シナプス後膜の本来アセチルコリンが結合すべき場所(ニコチン性アセチルコリン受容体)に作用して興奮性伝達を活性化します。



グレートラムの作用機構

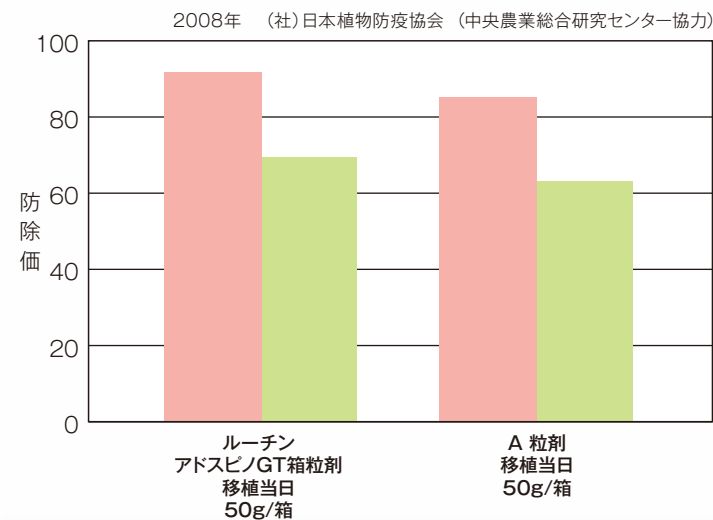
チフルザミドは、イネ紋枯病が属するリゾクトニア属菌に高い生物活性を示します。チフルザミドは病原菌中のミトコンドリアに存在するコハク酸脱水素酵素を阻害し、病原菌のエネルギー代謝の働きを抑えることにより菌糸の伸長を停止させます。この特性により、イネ紋枯病菌の菌糸の伸長を停止させ、また、菌糸の生育を完全に阻止しない程度の濃度でも菌糸の形成は異常となり、菌核の形成が阻害され翌年の感染源を減少させます。

初期感染阻止 → 病勢進展抑制 → 次年度への越冬菌核減少



日植防新農薬実用化試験成績(抜粋)

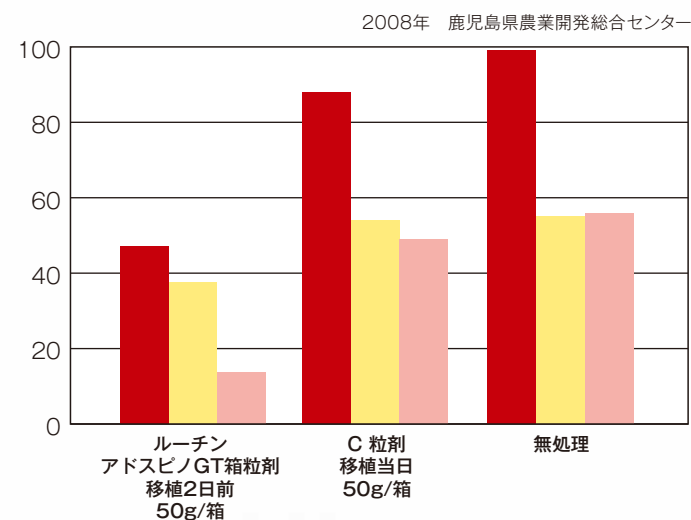
いもち病に対する防除効果



葉いもち
穂いもち

品種: キヌヒカリ
発生状況: 葉いもち(中発生接種) 穂いもち(中発生)
播種: 4月21日
移植: 5月13日
出穂: 8月6日
調査: 7月25日(葉) 9月1日(穂)

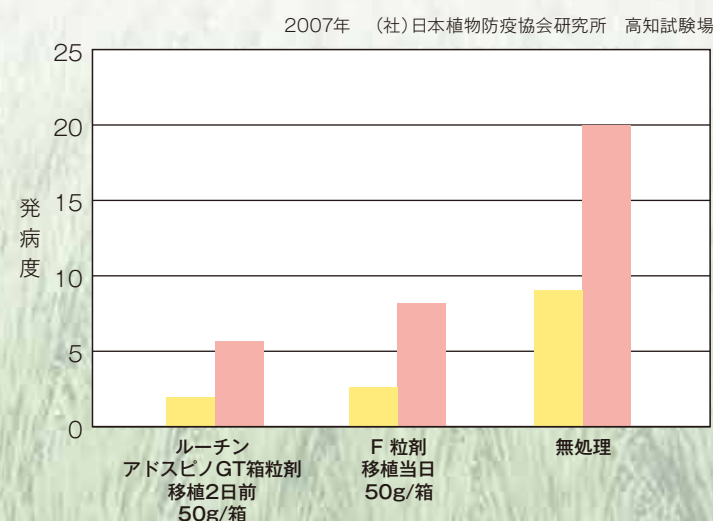
紋枯病に対する防除効果



発病株率
病斑高率
全体の被害度

品種: ヒノヒカリ
発生状況: 甚発生(接種)
播種: 5月23日
移植: 6月19日
出穂: 8月20日
調査: 9月12日

白葉枯病に対する防除効果

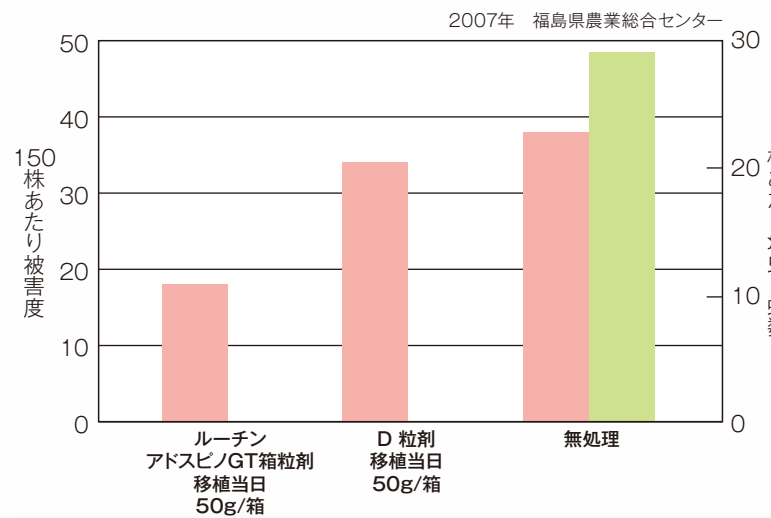


9月3日調査
9月13日調査

品種: ヒノヒカリ
発生状況: 中発生(接種)
播種: 5月7日
移植: 6月11日
出穂: 8月26日
調査: 9月3日、13日

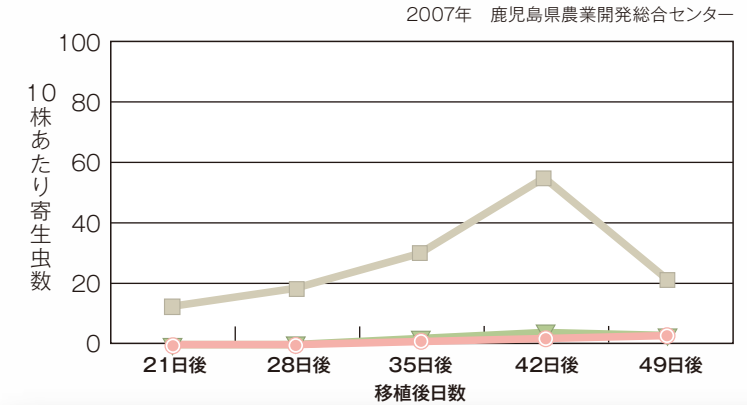
日植防新農薬実用化試験成績 (抜粋)

イネミズゾウムシに対する防除効果



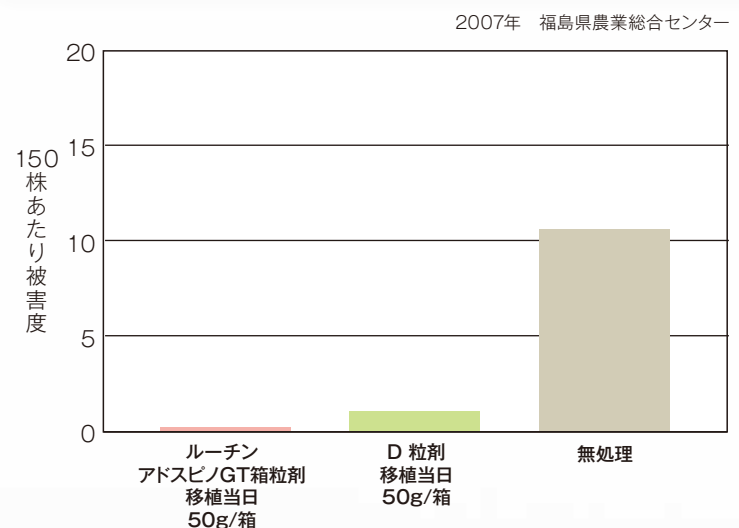
品種:チヨニシキ
発生状況:少発生
播種:4月23日
移植:5月15日
調査:6月14日に各区150株について、被害度を調査
7月10日に各区5株掘り上げ、幼虫数・蛹数を調査

ツマグロヨコバイに対する防除効果



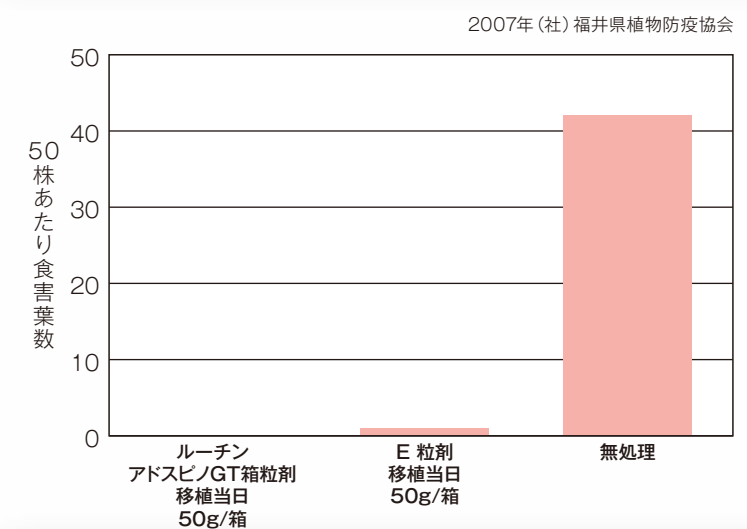
品種:ヒノヒカリ
発生状況:中発生
播種:5月25日
移植:6月19日
調査:7月10日、17日、24日、31日、8月7日の5回、
1区2地点(1地点10株)について、
払い落とし法で虫数を調査

イネドロオウムシに対する防除効果



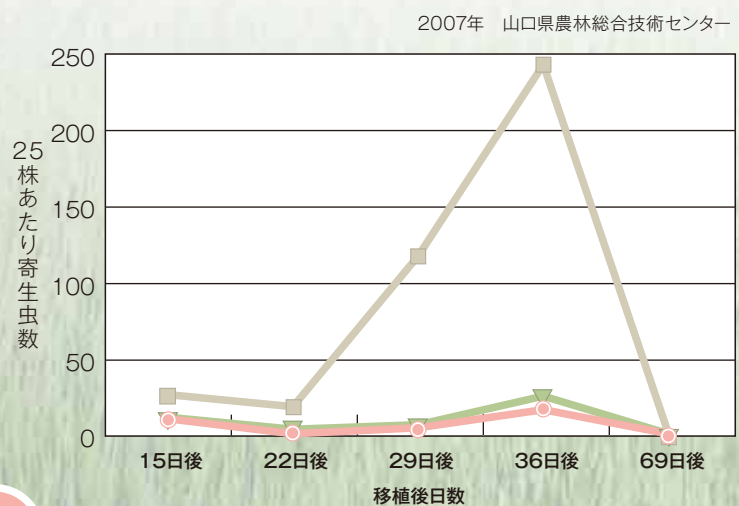
品種:チヨニシキ
発生状況:少発生(放虫)
播種:4月23日
移植:5月15日
調査:7月3日に各区150株について、成虫数、
卵塊数、幼虫数、蛹数を調査し被害度を算出

フタオビヨヤガに対する防除効果



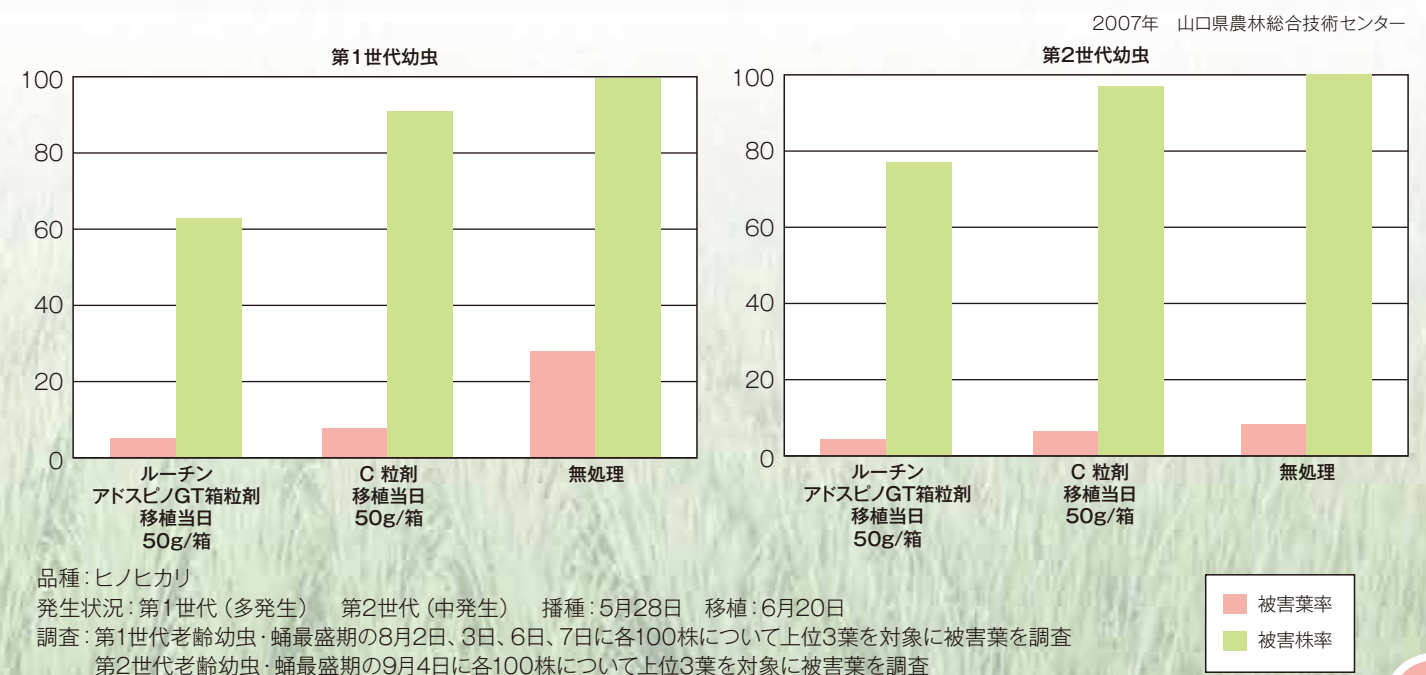
品種:コシヒカリ
発生状況:少発生
播種:4月11日
移植:5月4日
調査:6月28日に各区(50株×3地点)の食害葉数を調査

セジロウンカに対する防除効果



品種:ヒノヒカリ
発生状況:中発生
播種:5月28日
移植:6月20日
調査:7月5日、12日、19日、26日、8月28日の5回、
各区25株について寄生虫数を調査

ヨブノメイガに対する防除効果



品種:ヒノヒカリ
発生状況:第1世代(多発生) 第2世代(中発生) 播種:5月28日 移植:6月20日
調査:第1世代老齢幼虫・蛹最盛期の8月2日、3日、6日、7日に各100株について上位3葉を対象に被害葉を調査
第2世代老齢幼虫・蛹最盛期の9月4日に各100株について上位3葉を対象に被害葉を調査



ルーチンアドスピノGT箱粒剤成績概評(病害)

ルーチンアドスピノGT箱粒剤成績概評(虫害)

| 実施年度 | 作物名(品種) | 病害虫名 | 実施場所 | 発生状況 | 播種日 移植日 | 出穂日 | 処理量 | 処理方法 | 対照薬剤 | 対対照 | 対無処理 | 判定 | 薬害 |
|------|----------------|---------------|---------------|-------------------------|--------------|------|-------|----------------------|-----------------------------|----------|--------|--------|--------|
| 2007 | イネ (関東90号) | いもち病 (葉・穂) | 山口 | 葉(多発生) 穂(中発生) 接種 | 5/18 6/6 | 8/19 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前6/4) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/6) | 葉C 穂B | A B | A B | - - |
| 2007 | イネ (関東90号) | いもち病 (葉・穂) | 岡山北部 | 葉(多発生) 穂(多発生) 接種 | 4/19 5/15 | 8/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/15) | F粒剤 50g/箱 (移植当日5/15) | 葉B 穂B | A D | A D | - - |
| 2007 | イネ (あぎけしぎ) | いもち病 (葉・穂) | 熊本 | 葉(少発生) 穂(少発生) | 5/2 6/4 | 8/14 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/4) | G粒剤 50g/箱 (移植当日6/4) | 葉C 穂C | B B | B B | - - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | いもち病 (葉・穂) | 宮崎 | 葉(少発生) 穂(少発生) 接種 | 5/14 6/6 | 8/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/6) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/6) | 葉B 穂B | A B | B B | - - |
| 2008 | イネ (コシヒカリ) | いもち病 (葉・穂) | 福井植 | 葉(少発生) 穂(極少発生) 接種 | 4/9 5/4 | 7/30 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/4) | G粒剤 50g/箱 (移植当日5/4) | 葉B 穂? | A ? | A ? | - - |
| 2008 | イネ (キヌヒカリ) | いもち病 (葉・穂) | 日植防 (北陸病害) | 葉(中発生) 穂(極少発生) 接種 | 5/2 5/22 | 8/10 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/22) | D粒剤 50g/箱 (移植当日5/22) | 葉A 穂? | B ? | B ? | - - |
| 2008 | イネ (キヌヒカリ) | いもち病 (葉・穂) | 日植防 (中央農研) | 葉(中発生) 穂(中発生) 接種 | 4/21 5/13 | 8/6 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/13) | A粒剤 50g/箱 (移植当日5/13) | 葉A 穂B | A B | A B | - - |
| 2008 | イネ (キヌヒカリ) | いもち病 (葉・穂) | 兵庫 | 葉(甚発生) 穂(少発生) 接種 | 5/12 6/6 | 8/7 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/6) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/6) | 葉B 穂C | A C | A C | - - |
| 2007 | イネ (関東90号) | 紋枯病 | 広島 | 多発生 | 4/25 5/15 | 8/15 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前5/13) | H粒剤 50g/箱 (移植2日前5/13) | D | D | D | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | 紋枯病 | 佐賀 | 中発生 | 5/21 6/13 | 8/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前6/11) | H粒剤 50g/箱 (移植当日6/13) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (あきたこまち) | 紋枯病 | 青森植 | 中発生 接種 | 4/10 5/26 | 8/8 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/26) | I粒剤 50g/箱 (移植当日5/26) | D | C | C | - |
| 2007 | イネ (コシヒカリ) | 紋枯病 | 島根 | 甚発生 接種 | 5/21 6/11 | 8/13 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/11) | J粒剤 50g/箱 (移植当日6/11) | D | D | D | - |
| 2008 | イネ (はえぬぎ) | 紋枯病 | 山形 | 多発生 接種 | 4/21 5/16 | 8/1 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/16) | K粒剤 50g/箱 (移植当日5/16) | B | C | C | - |
| 2008 | イネ (キヌヒカリ) | 紋枯病 | バイエル (茨城) | 中発生 接種 | 4/17 5/9 | 8/4 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/9) | C粒剤 50g/箱 (移植当日5/9) | B | B | B | ± |
| 2008 | イネ (コシヒカリ) | 紋枯病 | 日植防研 (成東) | 少~中発生 接種 | 4/14 5/8 | 8/3 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/8) | K粒剤 50g/箱 (移植当日5/8) | A | B | B | - |
| 2008 | イネ (関東90号) | 紋枯病 | 岡山 | 甚発生 接種 | 5/30 6/19 | 8/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/19) | H粒剤 50g/箱 (移植当日6/19) | ? | ? | ? | - |
| 2008 | イネ (日本晴) | 紋枯病 | 山口 | 中発生 接種 | 5/12 6/5 | 8/16 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/5) | C粒剤 50g/箱 (移植当日6/5) | A | B | B | - |
| 2008 | イネ (キヌヒカリ) | 紋枯病 | バイエル (高知) | 甚発生 接種 | 5/8 5/27 | 7/28 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/27) | C粒剤 50g/箱 (移植当日5/27) | B | C | C | ± |
| 2008 | イネ (ヒノヒカリ) | 紋枯病 | 宮崎 | 多発生 | 5/16 6/5 | 8/21 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前6/3) | H粒剤 50g/箱 (移植2日前6/3) | B | A | A | - |
| 2008 | イネ (ヒノヒカリ) | 紋枯病 | 鹿児島 | 甚発生 接種 | 5/23 6/19 | 8/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前6/17) | C粒剤 50g/箱 (移植2日前6/17) | A | B | B | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | 白葉枯病 | 日植防研 (高知) | 中発生 接種 | 5/7 6/11 | 8/26 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前6/9) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/11) | A | B | B | - |
| 2008 | イネ (ゆめみずほ) | 白葉枯病 | 石川 | 少発生 接種 | 4/11 5/9 | 7/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/9) | D粒剤 50g/箱 (移植当日5/9) | B | C | C | - |
| 2008 | イネ (ヒノヒカリ) | 白葉枯病 | 日植防研 (高知) | 少発生 接種 | 5/7 6/4 | 8/19 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/4) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/4) | B | B | B | - |
| 2008 | イネ (ひとめぼれ) | 白葉枯病 | 大分植 | 極少発生 | 4/27 5/26 | 8/11 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前5/24) | F粒剤 50g/箱 (移植当日5/26) | ? | ? | ? | - |
| 2009 | イネ (ヒノヒカリ) | 白葉枯病 | 京都府大 | 多発生 接種 | 5/20 6/19 | 8/26 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前6/17) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/19) | C | C | C | - |

| 実施年度 | 作物名(品種) | 病害虫名 | 実施場所 | 発生状況 | 播種日 移植日 | 処理量 | 処理方法 | 対照薬剤 | 対対照 | 対無処理 | 判定 | 薬害 |
|------|----------------|--|------|------------------------------|--------------|-------|----------------------|--|----------------|-------------|-------------|----|
| 2007 | イネ (つがるロマン) | イネドロオイムシ | 青森 | 少発生 | 4/17 5/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前5/21) | L粒剤 50g/箱 (移植当日5/23) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (チヨコシキ) | イネドロオイムシ | 福島 | 少発生 (放虫) | 4/23 5/15 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/15) | D粒剤 50g/箱 (移植当日5/15) | B | A | A | - |
| 2008 | イネ (まつしぐら) | イネドロオイムシ | 青森植 | 少発生 | 4/16 5/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/23) | M粒剤 50g/箱 (移植当日5/23) | A | A | A | - |
| 2008 | イネ (あきたこまち) | イネドロオイムシ | 岩手植 | 少発生 | 4/15 5/19 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/19) | D粒剤 50g/箱 (移植当日5/19) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (つがるロマン) | イネミスゾウムシ | 青森 | 中発生 | 4/17 5/23 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植2日前5/21) | L粒剤 50g/箱 (移植当日5/23) | B | B | B | - |
| 2007 | イネ (あきたこまち) | イネミスゾウムシ | 山形 | 中発生 | 4/23 5/15 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/15) | D粒剤 50g/箱 (移植当日5/15) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (チヨコシキ) | イネミスゾウムシ | 福島 | 少発生 | 4/23 5/15 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/15) | D粒剤 50g/箱 (移植当日5/15) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ウンカ類 (セジロウンカ) | 山口 | 中発生 | 5/28 6/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/20) | C粒剤 50g/箱 (移植当日6/20) | A | A | A | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ウンカ類 (セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ) | 福岡 | セ(中発生) ト(少発生) ヒ(少発生) | 5/31 6/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/20) | E粒剤 50g/箱 (移植当日6/20) | セB トB ヒ? | A B ? | A B ? | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ウンカ類 (セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ) | 福岡 | セ(中発生) ト(少発生) ヒ(少発生) | 5/31 6/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/20) | N粒剤 50g/箱 (移植当日6/20) | セA トC ヒ? | | | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ウンカ類 (セジロウンカ トビイロウンカ ヒメトビウンカ) | 鹿児島 | セ(中発生) ト(極少発生) ヒ(極少発生) | 5/25 6/19 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/19) | E粒剤 50g/箱 (移植当日6/19) | セC ト? ヒ? | B ? ? | B ? ? | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ツマグロヨコバイ | 山口 | 少発生 | 5/28 6/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/20) | C粒剤 50g/箱 (移植当日6/20) | B | B | B | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ツマグロヨコバイ | 福岡 | 少発生 | 5/31 6/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/20) | E粒剤 50g/箱 (移植当日6/20) | B | B | B | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | ツマグロヨコバイ | 鹿児島 | 中発生 | 5/25 6/19 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/19) | E粒剤 50g/箱 (移植当日6/19) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | コブノメイガ | 山口 | 第1(多発生) 第2(中発生) | 5/28 6/20 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/20) | C粒剤 50g/箱 (移植当日6/20) | 1A 2A | B D | B D | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | コブノメイガ | 長崎 | 多発生 | 5/10 6/7 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/7) | F粒剤 50g/箱 (移植当日6/7) | C | C | C | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | コブノメイガ | 鹿児島 | 多発生 | 5/25 6/19 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/19) | E粒剤 50g/箱 (移植当日6/19) L粒剤 50g/箱 (移植当日6/19) | A C | A | A | - |
| 2007 | イネ (コシヒカリ) | フタオビコヤガ | 福井植 | 少発生 | 4/11 5/4 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/4) | E粒剤 50g/箱 (移植当日5/4) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (キヌヒカリ) | フタオビコヤガ | 埼玉 | 少発生 | 6/5 6/28 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/28) | E粒剤 50g/箱 (移植当日6/28) | B | A | A | - |
| 2007 | イネ (ヒノヒカリ) | フタオビコヤガ | 兵庫 | 少発生 | 5/18 6/7 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日6/7) | L粒剤 50g/箱 (移植当日6/7) | ? | ? | ? | - |
| 2008 | イネ (コシヒカリ) | フタオビコヤガ | 福井植 | 少発生 | 4/9 5/4 | 50g/箱 | 育苗箱施用 (移植当日5/4) | G粒剤 50g/箱 (移植当日5/4) | B | A | A | - |